

シリーズ〈現代の作家〉

山の大きさ、山の深さを

あぜちうめたろう

畦地梅太郎の世界

2013年1月5日(土) - 4月7日(日)

畦地梅太郎(1902-99)は、戦前戦後にわたり活躍した木版画家です。山を主題とするその作品は、さまざまな展覧会で紹介されるとともに、日本アルプスにある2000m級の山小屋に飾られたり、美術の教科書に掲載されたことによっても、広く親しまれてきました。

畦地が長い人生の最後に移り住んだのが町田市鶴川です。鶴川のアトリエは、平成13(2001)年より展示スペース「あとリエ・う」として公開されています。畦地が制作に励んだ「うらの仕ごと場」では、実際に使用した道具や版木とともに作品を鑑賞できます。

畦地が鶴川に転居した昭和56(1981)年、町田市では美術館建設構想が動き出しました。畦地が275点の自作の版画を市に寄贈したことが、「版画」美術館の誕生を大きく後押しすることとなりました。

あまたの美術館がきそいあ首都圏で、当館は25年のあいだ版画を中心とするユニークな活動を続け、国内外で高い評価を得てきましたが、その出発点は畦地の版画に深くあずかっていたのです。

今回は約50点の作品を4つのテーマにしたがって展示しています。山の大きさ、山の深さを描き続けたその世界をお楽しみください。

※データは、題名、制作年、技法、寸法(単位はmm)の順です。

技法の記載のない作品は、すべて木版多色です。

畦地の暮らした街

畦地は自分が暮らした街を作品に描いています。17歳まで育った故郷の愛媛、版画に出会った昭和初期の東京。取材の旅の途中で一年間を過ごした愛媛の御荘、敗戦前年に目の当たりにした満州の現実。家族と暮らした高輪や祖師ヶ谷、そして町田では自宅近くの鶴川市民センター・ホールの緞帳の原画を描いています。

1. 虫を追ひかける 昭和20(1945)頃 136×112

2. 九島山風景 昭和11(1936) 271×363

3. 工人 大正14(1925) 鉛凸版 98×82

4. 電車道 昭和3(1928)頃 鉛凸版 130×190

5. 小名木川附近 昭和5(1930) 357×405

6. 『御荘風景』より 昭和14(1939)

1. 観自在寺 240×330

2. 御荘鹿島 241×327

7. 『満洲』より 昭和19(1944)

1. 赤い壁 245×330

2. 泥の家 240×330

8. 子供たち 昭和21(1946) 658×455

9. 山の家族 昭和50(1975) 392×284

10. みどり、さわやか

(町田市鶴川市民センター・ホール 緞帳原画)

昭和60(1985) 179×544

11. みどり、さわやか(試作) 昭和60(1985) 240×500

山

昭和12(1937)年夏、畦地は初めて浅間山を目にします。噴煙をあげるその姿におぼえた感動は「山」という生涯のテーマへとみちびきます。畦地の関心は山の姿をうつすことではなく、実際に山を歩いて得た感動を表現することにありました。畦地にとって、山を描くことと山を歩くことは不可分のものだったのです。

12. 『2600年版 山』より

1. 妙義山 昭和15(1940) 306×451

2. 大菩薩嶺(妙見の頭) 昭和16(1941) 301×446

3. 瑞牆山 昭和16(1941) 305×459

4. 金峯山 昭和16(1941) 303×456

13. 南アルプス 昭和23(1948) 446×667

14. 甲斐駒(雪山嶺) 昭和24(1949) 435×512

15. 山(雲) 昭和25(1950) 301×422

16. 冬の富士(ハツ山ろくの富士)

昭和27(1952) 240×333

17. 雪溪(長治郎谷) 昭和27(1952) 291×397

18. 火の山 昭和27(1952) 291×426

19. 『山—北アルプス』より 昭和42(1967)

1. 燕(頂上の小屋) 298×236

2. 潤沢(潤沢の小屋) 298×236

山男

山の版画家としての地位を確立していた畦地が「山男」の作品を発表したのは昭和27(1952)年のことです。山の景色を描くことからさらに踏み込んで、山男を通じて畦地自身の気持ちを表現しようと考えたのです。素朴で親しみやすい山男たちは幅広い支持をえて、畦地を代表するテーマとなったのです。

20. 闘志	昭和28(1953)	409×283
21. けものを追う人	昭和30(1955)	446×328
22. 鳥をいだく	昭和31(1956)	403×293
23. やまのなかま	昭和31(1956)	451×323
24. 山のよろこび	昭和32(1957)	614×426
25. 登頂のよろこび	昭和32(1957)	611×431
26. 白い像	昭和33(1958)	692×453
27. ハーケン	昭和42(1967)	507×377
28. 一人の像	昭和33(1958)	688×453
29. 雪どけの山道	昭和39(1964)	517×362
30. よろこびの山	昭和48(1973)	236×178
31. 山小屋の冬	昭和55(1980)	389×290

畦地の版画制作

畦地はクレヨンや絵具で原画を描き、裏面から輪郭をボールペンでなぞり版に写す方法を用いました。そうした制作の一端を原画と版画作品でご紹介します。

32. 石鎚山 ^{いしづちさん}	昭和21(1946)	165×240
33. 石鎚山原画	昭和21(1946)	クレヨン他 170×243
34. 石鎚山原画	昭和21(1946)	クレヨン他 170×245
35. 阿蘇山 ^{あそさん}	昭和21(1946)	165×240
36. 阿蘇山原画	昭和21(1946)	クレヨン他 170×240

※ケースでは版画誌に発表した作品や、版画集をご紹介します。

37. 『HANGA』第15集(1930年刊)より
 1. 静かなる通り 昭和3(1928) 鉛凸版 110×90
 2. めざし 昭和3(1928) 132×172
38. 『きつつき』第2集(1930年刊)より^{おわりちよう}尾張町の一角 昭和5(1930) 172×133
39. 版画集『山の絵本』
全20図 日本愛書会刊 昭和30(1955) 363×282
40. 『12のめるへん』
全12図 緑の笛豆本の会刊 昭和52(1977) 180×224
41. 燕山荘^{えんざんそう}のためのレリーフ ブロンズ 400×300

畦地梅太郎の鶴川のアトリエは、平成13(2001)年から、展示スペース「あとリエ・う」として公開されています。4月7日までは「うらの仕ごと場」展を開催、畦地が制作に使用した道具や版木などがご覧いただけます。この機会に、少し足をのばして是非お出かけください。

あとリエ・う

東京都町田市鶴川1-13-12 TEL:042-734-8586

小田急線鶴川駅下車徒歩8分

鶴川駅からバス=11・12番「センター前経由鶴川団地行」

鶴川第二小学校前または鶴川1丁目下車

浮世絵玉手箱

^{つきおかよしとし}月岡芳年(天保10<1839>~明治25<1892>)

^{つきひやくし}『月百姿』より

※いずれの作品も技法は木版多色、大判(約390×230mm)

- ① ^{いなばやま つき}稲葉山の月 明治18(1885)年
- ② ^{みやじさん つき}宮路山の月 明治22(1889)年
- ③ ^{きんときやま つき}金時山の月 明治23(1890)年

版画でつながる
アートの町田
25th
Anniversary

町田市立国際版画美術館

2013.1.5.発行

東京都町田市原町田4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>